

分野・世代 を超えた 学びの交流

第6回 犬山カジュアル学術討論会

【特別講演】

かわしまたけし

川島武士

国立遺伝学研究所

動物門から我々の遠い祖先を眺める

2021/09/18

[SAT] 13:00-15:30

@オンライン

五行説の中に動物を五虫に分ける考えがあります。「羽毛鱗介裸の五虫有り」と言われ、それぞれ鳥獣魚貝人を指すとされています。西洋ではアリストテレスが、動物を有血動物と無血動物に分けていて、有血動物が概ね鳥獣魚人に、無血動物が介に相当します。このように人類は、古くから動物を分類してきました。しかし、かつて介や無血動物とひとくくりにされていた小さな生き物たちこそが、動物の形態レベルの多様性の大半を占めていることが分かっています。動物についてのこのような大まかな分類には、近代以降の生物学においては門（もん、Phylum）という分類階級が対応しています。門の分類は約40あり、そのほとんどは人々に馴染みがありません。クマムシなどの緩歩動物門が一躍有名になったこともありましたが、ギボシムシやフサカツギの半索動物門、トゲカワムシの動物動物門、センモウヒラムシの板型動物門など、聞いたことがない人の方が多いと思います。門の分類は、基本的な形態の違いによって決められてきたので、それぞれに属する動物の個性は格別です。あまり知られていない門レベルの動物の違いと特徴を、その生物学的な歴史を含め、最新の知見を交えてお話ししたいと思います。

招待講演題目（2名）

- ・ エジプトセクハラ滞在記
- ・ 台風に伴って発生する気象現象と渦構造の関係

一般講演題目（2名）

- ・ 賭け事の魅力
- ・ 身近だけどあまり知られていないイネ科植物の話

ICAD 参加料無料

主催：犬山カジュアル学術討論会

会長：若宮稜（南山大学）

参加方法：HPをご覧ください

詳しくはHPへ



ICAD 犬山

<https://cudresearch.wixsite.com/icad>

検索